

第 39 回奈良市子ども・子育て会議 会議録			
開催日時	令和 7 年 2 月 17 日 (月) 午前 10 時～正午		
開催場所	オンラインを併用したハイブリッド形式 ※本会場は奈良市役所 北棟 2 階 202 議室		
出席者	委員	大方会長、浜田副会長、梶木委員、國原委員、栗本委員、栗原委員、櫻井委員、田中委員、辻中委員、山下委員、重松委員【計 11 人出席】 伊藤委員、岡澤委員、岡田委員、島委員、谷口委員【計 5 人欠席】	
	事務局	【子ども未来部】 小澤子ども未来部長、野儀子ども未来部理事、保田子ども未来部次長、阪口子ども未来部参事、榊原子ども未来部参事、松田子ども政策課長、片岡保育総務課長、岡本保育所・幼稚園課長、中村子ども育成課長、穴尾子育て相談課長、浦一時保護課長、田村子ども支援課長 【保健所】 米野母子保健課長 【教育委員会事務局】 松浦教育政策課長補佐、原田地域教育課長、牧野学校教育課長 【福祉部】 藤原福祉政策課長補佐	
開催形態	公開 (傍聴者 : 0 名)	担当課	子ども未来部子ども政策課
議題	【審議案件】 (1) 令和 7 年度奈良市子ども会議について (令和 6 年度の実施報告含む) (2) 令和 7 年度奈良市教育・保育の提供体制について (3) 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン(子ども・子育て支援事業計画/こども計画)について		
決定又は取り纏め事項	<ul style="list-style-type: none"> ・令和 7 年度奈良市子ども会議について (令和 6 年度の実施報告含む) について、資料を提示しご意見いただいた。 ・令和 7 年度奈良市教育・保育の提供体制について、資料を提示しご意見いただいた。 ・第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン (子ども・子育て支援事業計画/こども計画) について、資料を提示しご意見いただいた。 		
議事の概要及び議題又は案件に対する主な意見等			
【審議案件】 (1) 令和 7 年度奈良市子ども会議について (令和 6 年度の実施報告含む) について ・委員より、令和 6 年度の子ども会議において、子どもたちの意見が実際に実現したまたは実現する可能性があるものは何かあるか質問があった。			

・事務局より、今回の会議のテーマである「子どもにやさしいまち」が抽象的であったために、子どもたちからの意見を見ると既に奈良市が取り組んでいる施策の提案が多くみられたこともあって、現時点で何か新しく実現させる予定の施策はない。ただし、子どもたちが認知できていない情報は確実に届けようということで、市の回答では関係機関の連絡先や関連情報へのリンクを記載したと回答した。

・委員より、子どもたちも自分の意見が実現されたことが明確に実感できれば、もっと意欲的に自分の意見を言ってくれると思う。単に子どもたちから意見を聞いて終わりということではなく、意見の実現やその可能性、もしくは実現が難しいのであればその理由などのフィードバックをしっかりとほしいという意見があった。

・事務局より、令和 5 年度や令和 6 年度の子どもたちの意見で、すぐには難しいかもしれないが検討を重ねる中で実現がなされたら、順次丁寧にフィードバックをしていきたいと回答した。

・委員より、令和 7 年度奈良市子ども会議のテーマが「防災」であることについて、子どもの時代から「防災」について考えることは大事だと思う。可能なら、兵庫県の人と防災未来センターにて地震発生当時はどうだったかを疑似体験や語り部からお話を聞くなどすると非常にいいと思うという意見があった。

・事務局より、予算などを鑑みて検討させていただきたいと回答した。

(2) 令和 7 年度奈良市教育・保育の提供体制について

・委員より、三笠保育園の民間移管について、一つは民間移管することで教育・保育の方向性がどのように変わるのかということについての不安、もう一つは障がいのあるお子さんが民間移管後は手厚く受け入れてもらえないのではないかと不安の声を耳にする。今までも何回か保護者への説明会があったとは聞いているが、自分の意見を言える機会が少なかったかもしれないというご意見もあったため、もう少し定期的に細やかなご説明をする機会が必要なのではないかという意見があった。

・事務局より、民間移管においては、市と法人が協定を締結することによって、引き続きこれまでの教育・保育をもとにしつつ、さらに法人のいい部分やノウハウを掛け合わせて教育・保育のサービスアップに努めている。市としても支援が必要な児童の受入や対応に対するご意見を多く頂戴するが、これまでも看護師の常勤配置を条件とし、加えて昨年度の公募園からは医療的ケア児の受け入れ態勢を整えることを公募要件に明記している。また、保護者の意見聴取については、必要に応じて保護者の皆様への情報提供、質疑応答の場は設けており、移管前には三者協議会を設けて話し合いを進めている。さらに、保護者の意見を聞く場として法人や市が園に常駐する時間を設け、懇話会形式で意見や質問を受ける場を設定するなどにより対応しているが、今後も適切に対応していきたいと回答した。

・委員より、待機児童数と、園の受け入れ可能数の上限に対して実際どれくらい園児の受け入れができて

いるのかについて質問があった。

・事務局より、待機児童数は、保護者の就労要件の緩和や第二子以降の保育料無償化に伴い、保育ニーズが増加していることから、令和4年度は国基準で8名まで減少していたが、令和6年度は23名まで増加している。また、全行的に保育士不足は公私に関わりなくあてはまるが、公立園でも保育士不足により充足率が低い園も存在している。民間移管の取組の中で適正な定員設定を検討するなど、状況が改善されていくようにしっかりと検討していきたいと回答した。

(3) 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン(子ども・子育て支援事業計画/こども計画)について

・委員より、「自分を大切に、他者も大切に」というフレーズは確かに10年前なら問題なかったかと思うが、声をあげにくい子からするといきなり「他者の権利も大切に」と言われてしまうとますます自分の意見を言にくくなってしまう。「他者の権利も大切」として私人間の問題にしてしまえば、彼らは自分の意見を言えなくなってしまうこともあり、最近の条例では「あなたの権利が大事」ということだけをうたい、「他者の権利も大事」とは言わなくなってきている動きがあるため、そこも知っておいていただきたいという意見があった。

・委員より、資料4-1のP21の「若者層の動態」で20代の流出が多い印象だが、子どもにやさしいまち、子育て世代にやさしいまちを目指して支援策の充実に努めているにもかかわらず、なぜこんなにも市外への流出が多いのかという質問があった。

・事務局より、あくまでも想像ではあるが、大学生や大学卒業後すぐの世代の転出は、若者の就職先が少ないことが1つの原因であると考えられる。どうしても就職先の近い大阪や京都に引っ越してしまう人が多いのではないかと想像していると回答した。

・委員より、奈良市の出生率が低くなっていることにも何かつながりがあるように感じる。いくら子どもにやさしいまちづくりを行っても、対象者が減少してしまってもったいないため、広い視点で子育て支援に臨んでいただきたいという意見があった。

・委員より、奈良市も含め世界的に地球温暖化が進む中で、特に夏がすごく暑くなってきているが、何か夏の酷暑対策のような事業は行っているかという質問があった。

・事務局より、事業の中には、酷暑対策に係る事業は入っていないが、教育施設でのエアコンの取り付けなど一定の暑さ対策は市で進めていると回答した。

・委員より、奈良市は盆地のため特に真夏の酷暑は危険であるうえに、子育て世代もお出かけ先に困って家に籠りがちになるかもしれない。これは子どもの権利にも影響してくると思うので、酷暑対策について単年

度でもよいので一度考えていただき、できれば継続してほしいという意見があった。

・委員より、資料 4-1 の中で、例えば P64 の「学校 DX の推進」の事業概要では、「『教員』への支援や研修等」と書いてあるが、「教職員」という文言に修正した方が良いと思う。近年は教員だけでなく、学校の職員にも DX に参加してもらうことで、学校全体の DX 戦略を推進していく流れができています。文章によっては「教員」だけの方が良い場合もあるため、「教員」という文言について修正が必要かどうか検討してみたいという意見があった。

・委員より、民間移管に対する不安について、一つ一つ丁寧に対応していくことが非常に大事だと実感している。移管先法人だけが運営を担うものではなく、公私立園ともに奈良市の子どもたちのための保育・こども園施設としてしっかり運営していきたい。そしてその取組の中で、市民の皆さんに対しての、安心や安定した保育の提供ができるように尽力したいというご意見があった。

・委員より、近年、男性の帰宅時間が劇的に早くなってきているが、それと同時に男性がどのように子育てに関わっているのかはまだまだ見えづらいと感じる。男性の育休取得率がここ数年で急増しているが、まだまだ差があるのが現状のため、現状をこれからも注視し、掘り下げて取り組んでいかなければいけないというご意見があった。

・委員より、男性の育児参加について、少し前であれば子育て広場に来る男性は自分くらいしかいなかったが、最近マザーリーフやにじいろ等に子どもと行くと、自分と同じような子連れの男性をよく目にするようになった。これは奈良市の、男性の育児参加に関する周知啓発のおかげだと思うため、引き続き周知啓発を行っていけば、今後も男性の育児参加の意識は高まり実数も増えていくと思うという意見があった。

・委員より、待機児童について、周りでも意図的に人気の園に希望を出してあえて落選し、育児休業の延長を図る人がいる。待機児童問題として、受け皿がないとか行政が悪いといった意見もあるが、ユーザー側が意図的にやっているケースもあるため、待機児童数と言っても本当に待機児童と言えるのかは精査しなければならない部分はあると思うという意見があった。

・委員より、P68 のコラム「Restart なら」・不登校関係の事業について全く知らなかったが、このような取組は何を見に行けば知ることができるのか質問があった。また、目次にコラムのページ番号も掲載するとより分かりやすいという意見があった。

・事務局より、コラムは、現時点ではあえて記載していない状態であるが、記載の仕方について検討させていただくと回答した。「Restart なら」の周知について、基本的にはホームページで周知をしているが、どんな活動内容なのか、いつ受付しているのか等、全容についてあまり知られてないと認識している。学校で、「Restart なら」の紹介カードを配布しているが、配布の仕方について教育委員会と連携して検討してい

きたいと回答した。また、不登校の関係については、ホームページ上に情報掲載しているうえ、各学校現場で必要な支援に繋いでいただいていると認識していると回答した。

資 料	【資料 1】 奈良市子ども・子育て会議委員名簿 【資料 2-1】 令和 6 年度奈良市子ども会議報告書 【資料 2-2】 令和 7 年度奈良市子ども会議開催案 【資料 3-1】 令和 7 年度奈良市教育・保育の提供体制について 【資料 3-2】 保育所等の新設について 【資料 4-1】 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 素案 【資料 4-2】 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 子ども向け概要版案 【資料 4-3】 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 素案に対する意見募集の結果 【資料 4-4】 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン 新旧対照表 【資料 4-5】 第三期奈良市子どもにやさしいまちづくりプラン（別添資料）事業指標および目標値一覧表
-----	---